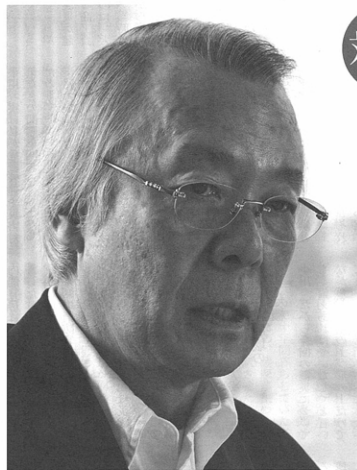


歴史に学ぶ復興への道

対談

元寇、開国、明治維新敗戦……、歴史を振り返ると、我が国には幾多の大きな困難があった。我々の先人はそれらの危機にいかに対処し、今日まで歴史の糸を紡いできたのだろうか。作家の童門冬二氏と、危機管理のプロフェッショナルとして知られる小川和久氏に語り合っていた。

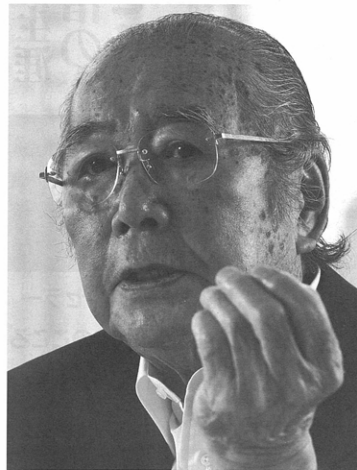


国際変動研究所理事長

小川和久

おがわかずひさ——昭和20年熊本県生まれ。少年自衛官、同志社大学神学部(中退)、日本海新聞記者、週刊現代記者を経て日本初の軍事アナリストとして独立。著書に「日本の戦争力」(アスコム)「危機と戦争」(新潮社)「ヘリはなぜ飛ばなかったか」(文藝春秋)など多数。

国難襲来 先人はいかに危機を乗り越えたか



作家

童門冬二

どうもんふゆじ——昭和2年東京都生まれ。東京都庁にて広報室長、企画調整局長を歴任後、54年に退職。本格的な作家活動に入る。第43回芥川賞候補。平成11年勲三等瑞宝章受章。著書に「小説佐藤一斎」など多数。近刊に「人生を贈ります太宰治の言葉」(いづれも致知出版社)がある。